

東北大学北海道同窓会連合会

会長就任あいさつ

富岡公治

一 約40年前、東北大学同窓会連合会が結成されるとの連絡があり、私にも参加の呼びかけがあり参加することとなりました。

その当時、既にSKKを中心とした青葉工業会の充実かつ確固とした組織があり、その他全学部の人に佐藤源輔初代幹事長が呼びかけて発足しました。

佐藤源輔さんは、太平洋戦争当時、陸軍主計中尉として、死線をさまよった人で、終戦後も経営していた建設土木会社を倒産した経験のある苦難の人生を送った人でした。しかし、温和でひょうきんで統率力がある人



で、約40年前の全道同窓会は楽しく、様々な活動と交流をしておりました。そして約10年経過した頃、佐藤幹事長兼事務局長から私に対し事務局長を引き受けてくれないかという依頼があり、私は約15年間事務局長を務めました。その後4年間幹事長を務めて副会長に就任しました。

その間、麻雀、囲碁、ゴルフ、飲み会と北海道同窓会の人達と真に楽しい日々を送ることができました。そして現在も親しい交友関係にある原幹事長をはじめ、多くの同窓生と友人関係ができたことは真に幸せだったと思っています。

今般、魚住会長が80歳になり、やはり北海道同窓会の会長は責任とストレスがあるので、後任として次の会長を引き受けてくれないかという依頼が2年前からありました。大変逡巡したところですが、佐藤源輔幹事長が創始した北海道同窓会に大変お世話になっており、尊敬する魚住会長の10年間にわたる御苦勞とストレスと対人接触の負担も大変であることは副会長としてよく知っておりましたので思い切って引き受けることとしました。

私も会長職という重責を引き受けることは各年代と多種多様な個性と年齢層の違う同窓会連合会の会長となることは、大変であると身が引き締まる思いであります。財政面と組織面においても現在大変な状況となっております。魚住会長は、10年間の任期を同窓会の各種会合に出来るだけ出席するようにしていろいろ心を尽くし立派に任期を終えたことは、身近にみて真にご苦勞様でしたと御礼申し上げます。

二 現在北海道同窓会連合会は、約40年という期間を経過し、組織面の充実と財政問題という解決すべき重要な課題があり、大変難しい局面に至っていると私は考えています。まさに創業は易く守成は難しの言葉通りであります。

そして現在、創立当初の活気ある先輩と同輩後輩達が亡くなったり、あるいは身体に故障もある人もあり、若い世代に引き継ぐ時期に至っていると考えています。

しかし、後輩の人達もやはり自分の職務の遂行と生活を維持するために大変いろいろと苦勞をしていて、同窓会活動に関係することはどの人にとっても大変な難事と言わざるを得ません。

三 皆様も同様に考えていると思いますが、北海道同窓会連合会は、各学部の同窓会の連合組織であり、各学部単位の同窓会においても一定の学部は同窓生の把握と各学部の充実した活動をしている学部が存在しますが、他の大部分の各学部の幹事さんは各学部の活動に大変苦勞していると聞いております。しかし、各学部の同窓会活動の充実なしに北海道連合会の充実はありえないと考えています。

そこで、私は連合会と各学部との間に連携を促進することによりその発展を図るとともに、会員相互の親睦を図ることが必要であり、各学部の人達と協議して何より出来るだけ充実した名簿の作成をして新たな参加者の掘り起しをすべきであると考えます。

又、同窓会名簿については個人情報の点の問題が言われていますが、個人情報保護法が定める個人情報取り扱い業者は個人の数5,000を超える業者をいい、約1000名内外の北海道同窓会連合会はこれに該当しません。また一方、東北大学の各学部の本部は何千名もの名簿を登録しています。

この点において、各学部の名簿を友人達に調査して把握の上、毎年問題となっている組織状況と財政状況を改善するという課題も何とか解決したいと考えております。

四 私と魚住さんも年齢が3歳くらいしか離れておらず、私の任期も1期か2期になると思います。その後はより有能で意欲的な後継者に引き継ぎたいと思います。

たとえば私は約10年間野球で言うと6回を立派に投げきった魚住会長の多大な貢献と御苦勞に感謝するとともに、7回か8回だけ投げる中継ぎピッチャーに就任した私は、何とか少しでも組織と財政面で良い状況をつくって後任者に引き継ぎたいと思います。

どうかよろしくお願い致します。